（資料）

令和４年度
京都市伝統産業活性化推進審議会

産業観光局クリエイティブ産業振興室

本日の内容

京都の伝統産業
Traditional Crafts of Kyoto

１　計画及び審議会について

２　令和３年度の審議会での議論

３　これまでの成果

４　令和４年度の新たな取組

５　今後の取組

６　本日、御議論いただきたいこと

京都の伝統産業
Traditional Crafts of Kyoto

1　計画及び審議会について

京都市伝統産業活性化推進条例（平成１７年度施行）

○　目的

この条例は、伝統産業の活性化の推進に関し、その基本理念を定め、並びに本市及び事業者の責務並びに市民の役割を明らかにするとともに、伝統産業の活性化の推進に関する施策の基本となる事項を定めることにより、伝統産業の活性化を総合的かつ計画的に推進することを目的とする。

⇩

京都市、事業者、市民がそれぞれに伝統産業の活性化に努める。

○　４つの基本理念

①
経済状況や生活様式の変化に常に対応し、市場を開拓する

②
基盤の強化、円滑な流通の促進、技術の継承と革新

③
優れた価値を広く世界に伝え、伝統産業の魅力を増進する

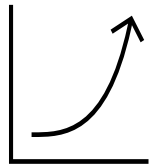
④
日本独自の伝統文化の継承と文化の創造

第３期京都市伝統産業活性化推進計画・審議会

【第３期京都市伝統産業活性化推進計画】

○　計画期間
　平成２９年度～令和８年度の１０年間の計画期間

最大の目標　平成２７年度比 **出荷額の増加**



○　３つの視点

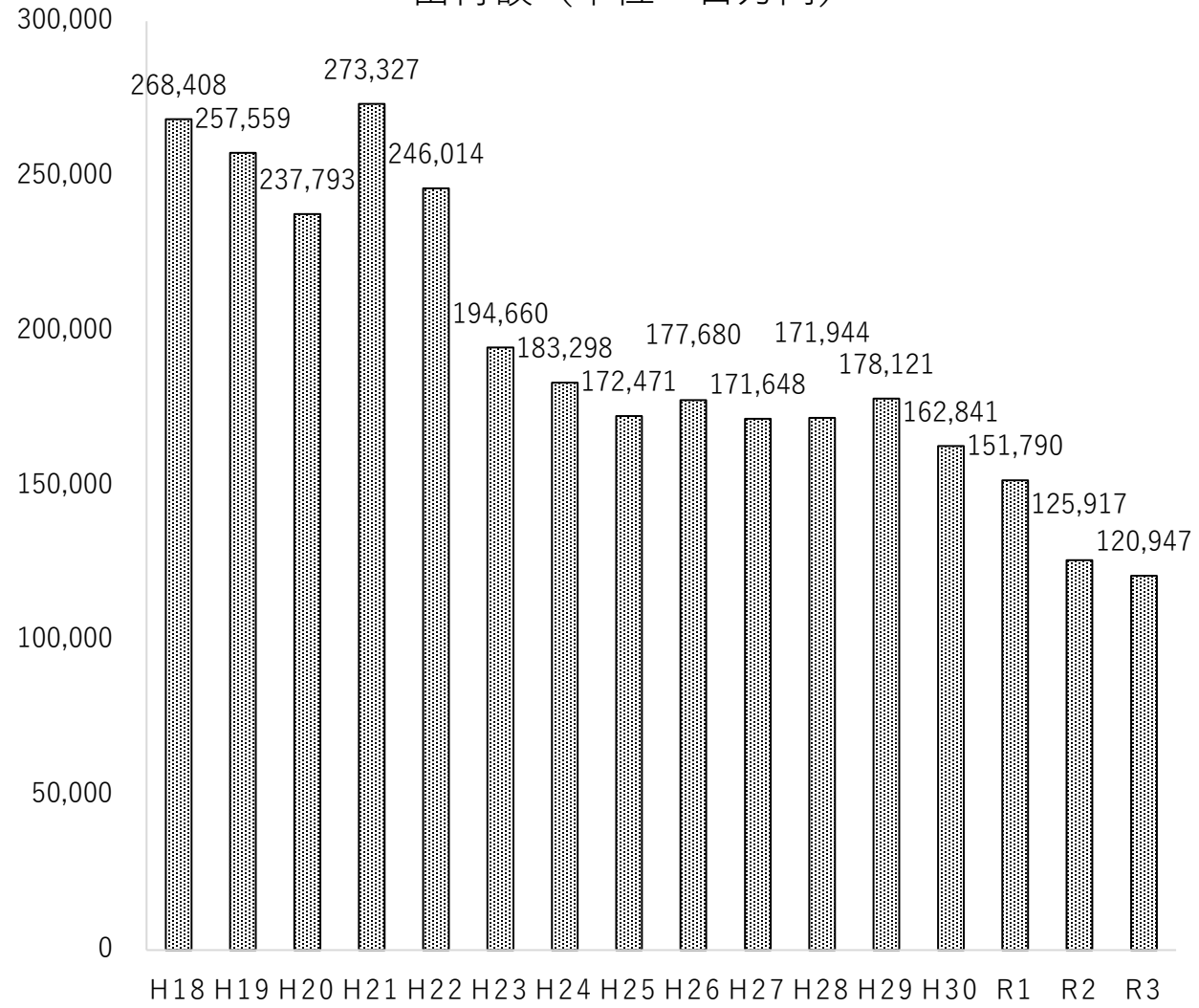
①	②	③
伝統産業 × イノベーション	**伝統産業 × 文化・観光**	**伝統産業 × 使い手**

【京都市伝統産業活性化推進審議会】

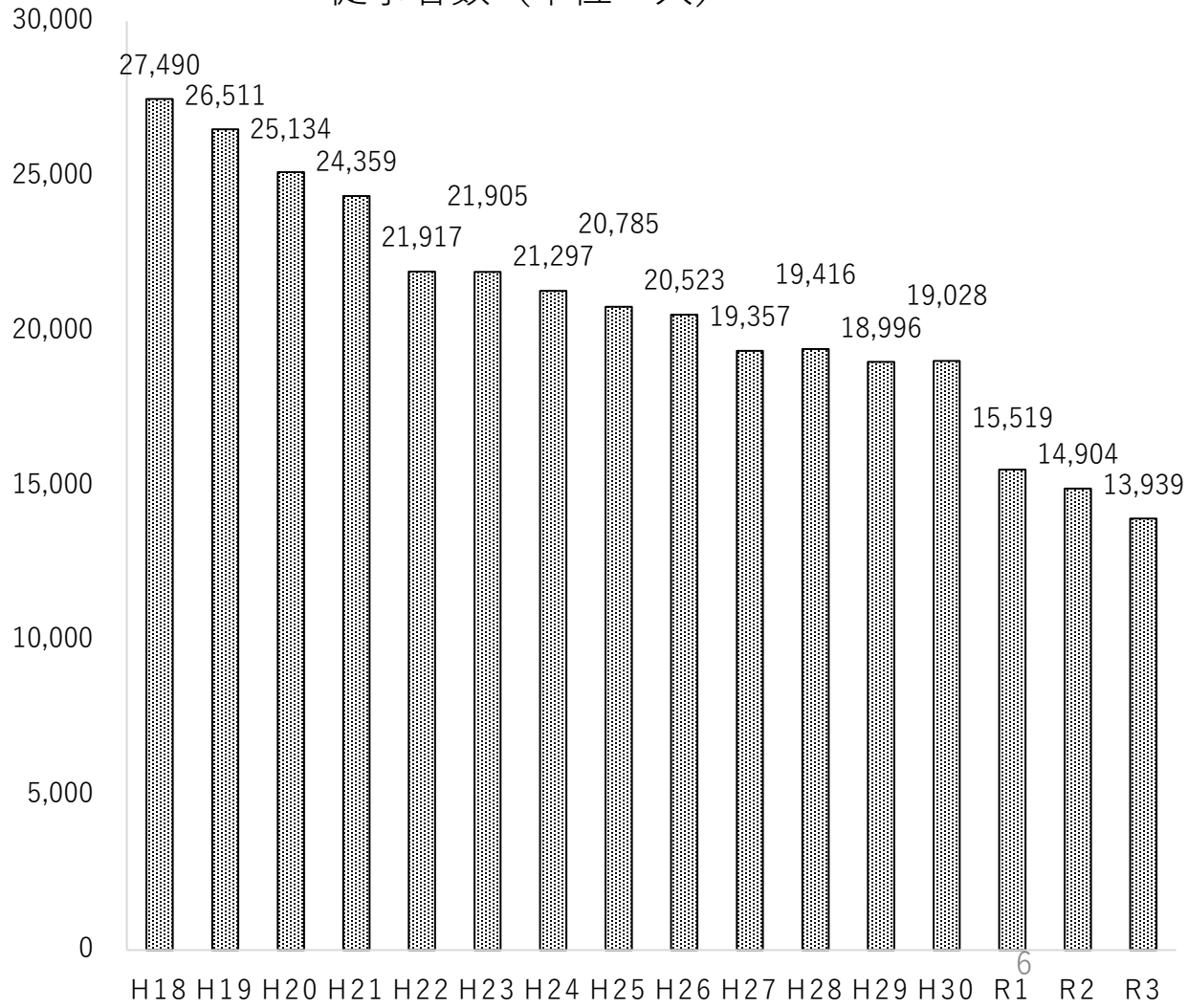
○　伝統産業の活性化の推進に関する事項について、調査・審議し、意見を述べる。

現状（74品目業界アンケート調査）

出荷額（単位：百万円）



従事者数（単位：人）



２　令和３年度の審議会での議論

2　令和３年度の審議会での議論

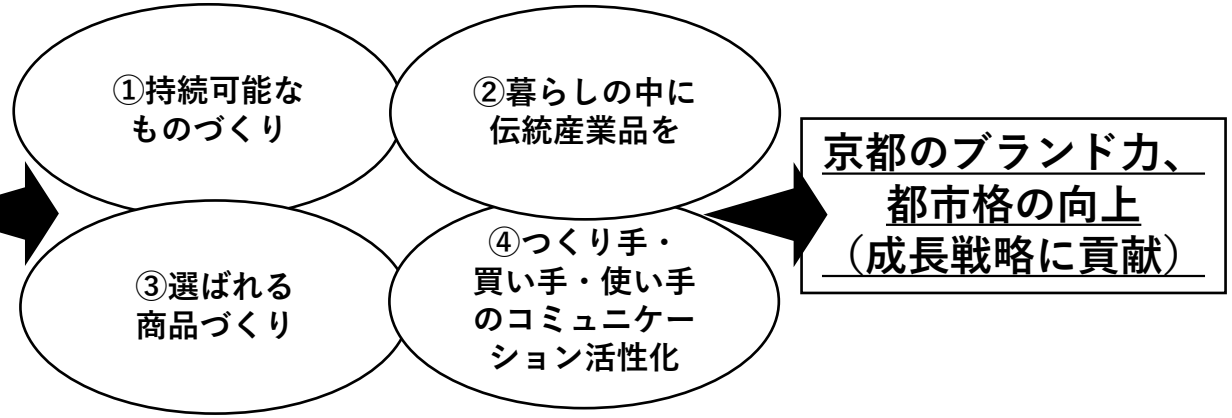
第３期京都市伝統産業活性化推進計画後半期５年に向けて

１　京都の伝統産業振興に向けた今後の取組について

世界に誇る京都の伝統産業を活性化することにより、文化と産業・経済の好循環を構築し、都市の成長戦略の推進につなげるとともに、ＳＤＧｓの達成に貢献

２　課題の確認

ビジョンを考えるうえでの４つのポイント



３　ビジョン

★商品開発

マーケティングによりニーズをとらえ、新たな顧客獲得につながる商品を開発できている。

★魅力発信・市場の拡大

つくり手・買い手・使い手のコミュニケーションが活性化している。

★販路拡大

ＥＣ、バーチャル、海外展開などあらゆる手法で販路拡大が進んでいる。

★流通

卸・問屋によるコンサルティングやＥＣによる直販など多様な選択肢があり円滑に機能している。

★社会課題解決に貢献

社会課題解決につながるものづくりが進んでいる。

★後継者育成

働きたい若者と担い手を必要とする事業者がマッチングできている。

★事業承継・技術承継

事業者同士がＭ＆Ａ等によりマッチングできている。

★観光

宿泊施設等と伝統産業がマッチングし、活用されている。
工房訪問、体験が充実。
購入できる場所も充実。

★文化

文化事業との連携・融合が一層進んでいる。
くらしの中に取り入れられ文化度の高い生活が定着している。

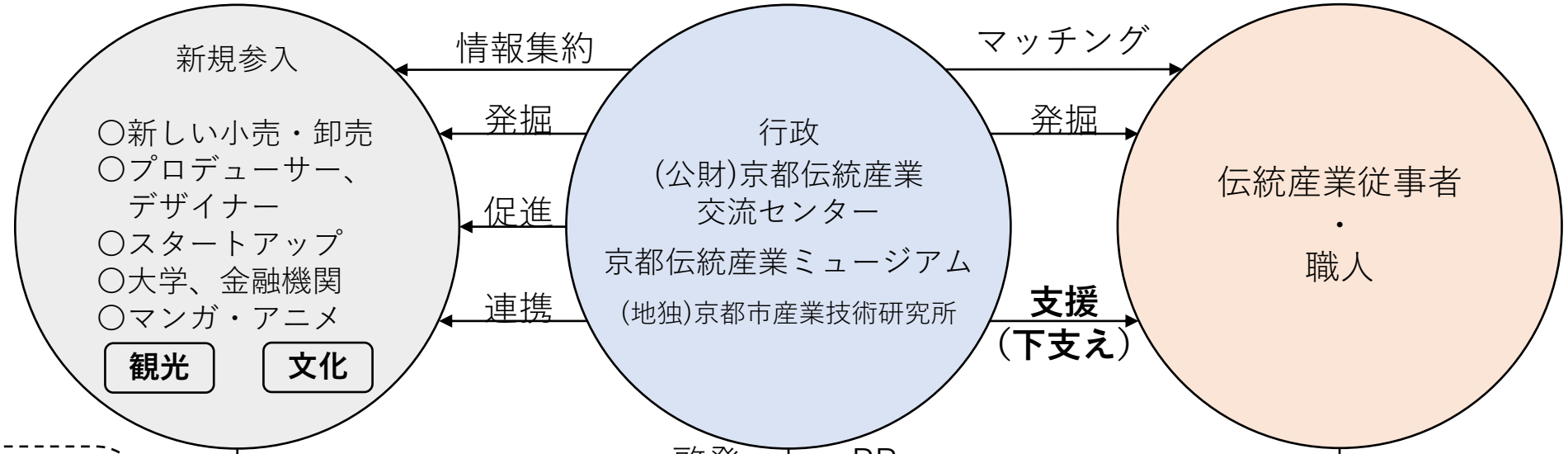
★好事例・ベストプラクティスの共有

好調な事例が業界全体に共有されており、底上げにつながっている。

行政などの今後の役割

〇これまでのような支援に加えて、伝統産業事業者「以外」と伝統産業事業者とのマッチングなども積極的に進める

- 伝統産業分野に関心のある民間事業者、金融機関、大学、プロデューサーと、意欲的な伝統産業事業者の情報を収集し、ビジネスマッチングの拠点に。



マーケティング
商品開発
販路拡大
後継者育成
事業・技術承継
ＤＸ支援

選ばれる商品づくり
マーケット拡大

京都の伝統産業
Traditional Crafts of Kyoto

3　これまでの成果

基本的施策ごとの事業実施内容

基本的施策１　伝統産業に関する創造的活動に対する支援

- 「伝統産業振興事業補助金」を令和４年度から「**未来構築事業**」にリニューアルし、新商品開発や販路拡大を支援
- 若手職人がインターンシップを受け入れ、コーディネーターと共に広報や営業、雇用に係る経営能力の向上に取り組む「**京もの担い手育成事業**」の実施
- マンガ・アニメ、ファッションブランド・雑誌との**コラボ事業**の実施
- **ふるさと納税返礼品**としての出品・商品開発
- コロナ禍、原油・物価高騰対策の補助金事業においても、危機を乗り越えるために新商品開発や販路拡大に取り組む事業者を支援

基本的施策２　伝統産業に関する教育や学習の場における取組

- 職人とともに制作体験を行う「**京の匠ふれあい事業**」の実施
- 小学４年生用副読本「**わたしたちの伝統産業**」の発行

基本的施策３　伝統産業に関する関心と理解を深める取組

- 「**西陣呼称５５５年記念事業**」の実施
- 「**伝統産業の日（春分の日）**」を中心に、年間通じて業界団体や民間事業者とともに普及啓発を実施
- 「**日本酒乾杯条例**」の全国に先駆けた制定（１０周年）
- 「**和のしつらえ**」の普及促進
- 隗より始めるプロジェクト（京もの販売会の開催等）

基本的施策４　技術の継承や後継者の育成

- 若手職人への**育成資金**の支給及び「**京の伝統産業わかば会**」での活動
- 現代のライフスタイルに合ったものづくりを行う若手職人を発掘する「**京ものユースコンペティション**」の実施
- 伝統産業の後継者確保と障害のある方の就労機会創出を両立する「**伝福連携事業**」の実施
- 技術継承に向け老朽化した設備の改修を支援する「**設備改修等事業補助制度**」の実施

基本的施策５　活性化拠点施設等の機能の充実

- 伝統産業ふれあい館→**伝統産業ミュージアム**にリニューアル
- **（独法）京都市産業技術研究所**の機能強化・連携

基本的施策６　表彰や奨励

- 職人の長年の功績を称える「**伝統産業技術功労者表彰顕彰**」
- 伝統産業の中核を担う中堅職人を認定する「**未来の名匠**」認定事業

（令和4年度）
技術功労者…12名を表彰（延べ表彰者1,188名）
未来の名匠…10名を認定（延べ認定者128名）

計画に定める６つの基本的施策の取組事例
５１全てに着手！

４　令和４年度の新たな取組

4　令和４年度の新たな取組

京都市伝統産業未来構築事業

- 世界に誇る京都の伝統産業を未来に継承・発展させ、持続可能な社会を構築していくため、新規事業を創設。
- **「他分野との連携」「現代のライフスタイルに合わせたものづくり」「販路の開拓・拡大」「担い手の育成」**に取り組む先進的な１４の取組を支援。
- コーディネーター（京都伝統産業ミュージアム）が年間を通じてセミナーや相談会の実施等により伴走支援し、事業効果を業界全体に波及させ、伝統産業の活性化につなげていく。

京表具×ランプシェード
デザイナーとコラボした商品開発・首都圏を含めた商談会への出展

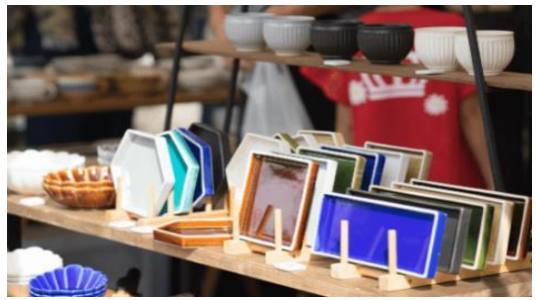
漆×サーフボード
漆を活用した木製サーフボード等の商品開発・販路拡大事業。地域で循環する自然素材を活用し、持続可能な地球環境を未来へ継承

北山磨き丸太の生産技術継承
良質な磨き丸太の生産に必要な育林作業、高所での枝打ち作業の資格取得・後継者育成

伝統工芸×海外の日本文化愛好家
イタリア、アメリカの日本文化愛好家向け商品サービスの開発
石材、陶芸、仏具、組紐、京料理の各分野から職人が参加

西陣designグランプリ
西陣織をテーマに斬新なデザイン・アート作品を幅広く募集するグランプリを実施

漆芸×自転車
フレームに漆を使用した新時代のものづくりと伝統工芸の需要拡大



清水焼の郷まつりプロモーション強化事業
大学生インターン・わかば会職人・飲食事業者の協働による京焼清水焼の魅力発信

京友禅×トートバッグ
至高の技術を活かした新商品開発・ECサイトを駆使した販路開拓

◆８月、１２月に販路拡大や情報発信等についてのセミナーを実施。
１２月には合わせて中間報告会も実施。３月に成果発表・展示会を予定。

「伝統産業の日」事業の充実

- 伝統産業×絵本「京都のモノがたりプロジェクト」
- ㈱福音館書店が出版する絵本４作品を題材として、次の３点に取り組む

１　作品の世界観を表すワークショップ（伝統工芸の制作体験等）の開発・実施

京都の伝統産業８業種が、題材となる「絵本」の世界観を表現した作品の完成を目指すワークショップを開発。

２　作品とコラボした商品の開発・販売

１のワークショップの開発・実施に当たって制作する見本（完成品）を㈱福音館書店と連携して商品開発し、販売。

３「絵本＆クラフトフェスタ」の開催

１のワークショップが全て体験できるとともに、絵本作家と伝統産業職人によるトークショー、絵本の読み聞かせ会などを行うイベントを開催。

日時：令和５年２月４日（土）午前１０時～午後４時

場所：イオンモールKYOTO

（作品の例）

伝統産業×和のしつらえ

- 京都の伝統産業や伝統文化にとって欠かせない「和のしつらえ」の魅力をより深く知る機会を創出。

1　「和のしつらえ」を提案できる立場にある京都府建築士会と連携した取組

⑴　京都府建築士会会員を対象とした伝統工芸ワークショップ・座談会を開催

日時：９月１１日、９月２５日
場所：ちおん舎
内容：和空間において伝統工芸（京焼・清水焼、京漆器・京蒔絵、京指物、京友禅）のワークショップに参加いただくとともに、伝統産業職人との座談会を行うことで、和室や和のしつらえ、そこに結び付く伝統産業製品の必要性、魅力を建築士の方々に知っていただく機会となった。

⑵　シンポジウム「和室のある暮らしについて考える～伝統工芸と茶の湯文化～」を開催

日時：１２月４日
場所：有斐斎弘道館
内容：「ほんもの」の茶室・庭園の見学に加え、伝統工芸・建築・文化の視点でそれぞれの専門家（表具師、建築士、文化人）がパネルディスカッションを実施。現代のライフスタイルに合わせた和のしつらえや、それを支える伝統産業の魅力を広く市民等に知ってもらう機会となった。

2　未来の担い手・使い手に向けた「和のしつらえ」及び伝統産業の魅力発信

社寺・京町家など和の文化・和のしつらえを感じられる施設において、子供向け伝統工芸の制作体験事業を実施。
実績：大船鉾会所（９月３、４日）
ちおん舎（９月１０、１１、２４、２５日）
東福寺（１０月２９、３０日、１２月１０、１１日）
国際交流会館和風別館（１月２８、２９日、２月４、５日）

令和5年度以降も継続して実施

伝統産業×宿泊事業者（コトノムスビ・プロジェクト）

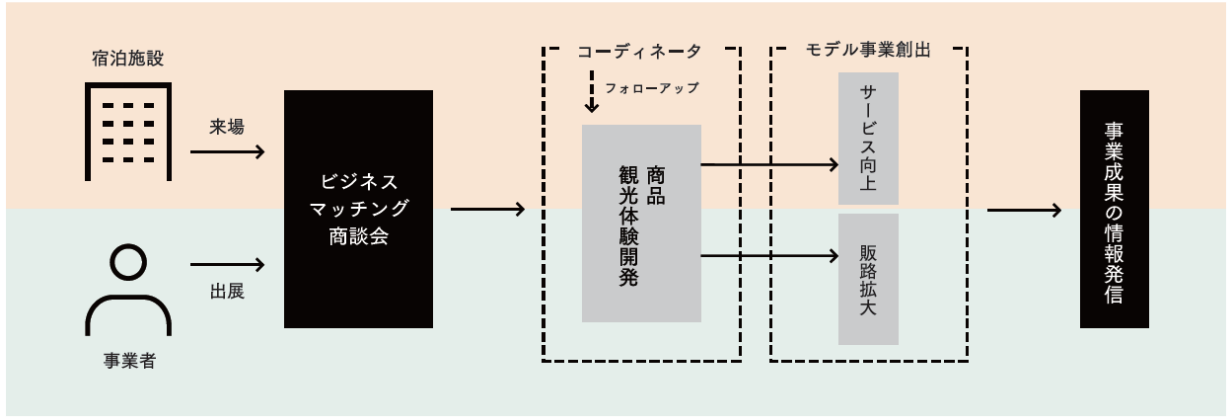
- 京都市内の宿泊事業者等と、伝統産業・農林業等の市内事業者とのビジネスマッチング商談会を実施。
- 商談会後も、コーディネーター・アドバイザーによる研修や営業支援等のフォローアップを実施。

○　ビジネスマッチング商談会

日時：令和４年１０月４日、５日　　会場：京都伝統産業ミュージアム
ブース出展事業者：２２事業者　　来場者：市内の宿泊事業者、旅行会社等

伝統産業：西陣織、京焼（清水焼、楽焼）、北山丸太、京銘竹などの１０事業者が参加

「コトノムスビ・プロジェクト」事業の流れ



出展事業者の声：「宿泊施設内の物販エリアでの販売や、コラボ商品の相談など、具体的な話があった。」
「陶芸体験など、ワークショップや体験アクティビティの問い合わせが多かった。」
宿泊事業者の声：「出展者の意識が高く、話を聞いているだけで楽しかった。地場産品を使う意識が上がった。」

4　令和４年度の新たな取組

日本酒乾杯条例１０周年の取組等

平成２５年１月１５日、**全国初「京都市清酒の普及の促進に関する条例」を制定。**同趣旨の条例が、現在（令和５年１月）**１６０の自治体に。令和５年で１０周年。**業界とともに更なる浸透へＰＲ。

- **伏見の清酒イメージアップキャンペーン（９月～１０月）**

伏見酒造組合：タレントをアンバサダーに任命し、動画配信やポスター、リーフレットでＰＲ。乾杯イベント、錦市場や心斎橋でキッチンカーで「京都伏見日本ＳＡＫＡＢＡ」展開

- **おかわりどうどすキャンペーン（令和５年１月～２月）**

京都酒造組合：「京の都酒」で乾杯した画像を＃京の都酒＃日本酒で乾杯ハッシュタグで投稿した方に抽選で「京の都酒」プレゼント。大学を卒業する学生への祝い酒プレゼント企画

○京都酵母

(地独)京都市産業技術研究所は、5種類の「京都酵母」を開発。吟醸、大吟醸など精米歩合による「ランク」ではなく「京都酵母」の多様な香味を楽しみ、お気に入りの日本酒を選んでいただく取組を進め、試飲会などを実施。

西陣呼称５５５年記念事業

西陣呼称555年であることを契機として、より多くの方に、京都を代表する伝統産業の一つである西陣織をはじめとする和装の魅力を知っていただくとともに、西陣地域の魅力発信を目的として、「西陣呼称555年記念事業」を実施。

- **「西陣 CROSS Week」（１１月）**

「西陣・西陣織」の「過去」「現在」「未来」をテーマに、「空引機」の復元・実演、特別きものショー、上京de婚活、西陣GoGoマルシェなど、多数の催しを展開

- **「京都西陣織の魅力・西陣と呼ばれて555年」展（１１月）**

東京において、西陣織の「過去」「現在」「未来」をテーマにした、「至芸品」の展示会

- **季節ごとのきもの等着用機会の提案**

7月：「七夕企画」**にしじん七夕まつり**
9月：「重陽の節句企画」**きものでNight Craft Museum**

- **西陣designグランプリ（７月～１１月）**

西陣織をテーマとしたアート・デザイン作品の創作を幅広く募集。これまでにない西陣織の魅力発信等を目的として実施

- **「京阪沿線ぶらりアート巡り」との連携企画（１１月）**

鉄道会社と連携し、西陣の歴史や西陣織に関する講座を実施

- **「駅から西陣エリアをポタリング」（１０月～１２月）**

シェアサイクルと連携。西陣のスポットを巡るコースを提案

バーチャル空間 京都館PLUS X

京都伝統産業ミュージアムで開催した工芸イベント「CRAFT POINT KYOTO」と連動するなど、バーチャル空間（メタバース）を活用した伝統産業の魅力発信を実施。

また、京都伝統産業ミュージアムのオンラインショップと連動し、販売につながる仕組みも導入。

伝統産業×化学メーカー

（出典）地方独立行政法人産業技術研究所機関誌、
産技研ＮＥＷＳちえのわ No.32、令和4年度 第1号 2022.8 Aug.、P05

化学メーカーと京都市産業技術研究所がタッグを組み、化学の力で伝統産業の課題に挑むプロジェクトを始動。

西陣織の金銀糸の変色防止や防炎加工などのテーマごとに若手研究員がチームを結成し、最先端の技術を生かして実現を目指す。

また、変色防止や防炎加工のほか、無水染色技術の開発、漆の速硬化などの課題の解決も目指す。

石川さゆりさんデビュー50周年記念「京友禅きものデザインコンペティション」

▲石川さゆりさんが着用されたきもの（ステージ衣装）

▲コンペティション受賞作品

京都市の情報を首都圏向けに発信している京都館事業と連携し、京友禅のPR、未来の担い手の発掘、職人の仕事の創出等を目的に、歌手の石川さゆり氏デビュー50周年記念として、京友禅協同組合連合会とともに実施。選ばれたデザインをもとに石川さゆりさん着用のきものを制作。1点もののふるさと納税返礼品として登録。

Social Innovation Week 2022 Shibuya「伝統産業×デジタル」アイデア会議

伝統産業の課題の１つである「若い世代への普及啓発」の解決策を探るべく、「京都のモノづくりを伝えたい」というテーマで、京都の伝統産業製品の魅力を発信するとともに、若い世代に伝える方法及び京都館PLUSXを活用したＰＲ方法を、職人やクリエイターなど様々な業種の方々を交え議論するトークセッションを実施。

コロナ禍、原油・物価高騰対策支援

- 国の地方創生臨時交付金により、令和４年度は総額1億円の事業を実施

１「伝統産業製品販売力強化等支援事業」

- **予算額：８,８００万円（６月補正）**
- 新商品開発、販路拡大、小規模修繕、展示会出展等に必要な経費を補助
  （組合等２５万円、法人１０万円、個人事業主５万円）
  （補助率９／１０以内）
- 約９００件の申請

２「伝統産業製品販売機会創出事業」

- **予算額：１,２００万円（６月補正）**
- リアル販売会（KYOTO FOOD & CRAFT MARKET）の開催（2/17・18、3/11・12）
- 催事、行事等といった販売機会が減少している状況において、様々なチャネルを活用した伝統産業製品商談会・販売会を実施するなど販売機会を創出する。
- 配信事業内でリアル販売会についても広報

【令和２年度】計365,000千円

〇伝統産業つくり手支援事業
- 新商品開発に係る材料費や労務費等の経費を支援

〇伝統産業和装産地支援事業
- 学校教材やＭＩＣＥに使用するきものや帯などの新規製造を産地組合に発注

【令和３年度】計424,000千円

〇京都市伝統産業従事者支援事業
- 新商品開発等に必要な材料や道具の購入経費を補助

〇伝統産業品販売促進支援事業
- 大規模見本市（東京ギフトショー）への出展支援
- 越境ＥＣ（JETROと連携した「JAPAN STORE」）への出展支援
- バーチャル空間における伝統産業品ＰＲ・販売
  京都伝統産業ミュージアムを拠点とした実演・販売等の機会創出　「CRAFT POINT KYOTO」

5　今後の取組

5　今後の取組

引き続き、**ビジョンの実現**に向け、計画に定める施策、また、令和４年度に取り組んでいるような、**意欲的、創造的な取組の支援**（海外展開も含む）**や他分野とのマッチング・コラボレーションの推進等**に一層取り組む。
合わせて、**コロナ禍や物価高騰**により、**一層厳しい伝統産業の状況**を受け、

○　限られた財源の中で、伝統産業の振興につなげるための
「外部リソースの活用」に取り組む。

また、

○　文化庁の京都移転、大阪・関西万博など、京都が注目され、訪れる方が増えることが見込まれる好機を捉え、伝統産業振興の拠点である
「京都伝統産業ミュージアム」の機能強化に取り組む。

外部リソースの活用

1　民間企業等との協業

（事例）

- 化学メーカーと連携して伝統産業の課題解決に取り組む中で、担い手育成に向けた寄付のお申し出をいただき、若手職人のコンペ、中堅職人の育成に活用
- 「京都学（京都芸術大学）」書籍の売上一部を担い手育成への寄付
- 更に国の補助金や社会貢献を目的とした基金、財団等からの支援も活用

2　ふるさと納税の活用

- 多くの伝統産業製品、高付加価値な体験型事業を登録
- 「地域と文化を支える伝統産業や観光などの振興」を使途として選択可能
- 登録料・販売手数料・サイト掲載料不要　⇒　事業者の売上に直結
- 今年度、寄付額は最高額を見込む
- 企業版ふるさと納税の仕組みの活用

令和４年度
約９２億円（12月末時点）

【清水焼×高級ホテル】
陶芸体験とディナー

１日１名限定！智積院開館１泊２日
豪華なご夕食を堪能できるプラン
（お土産に伝統産業品）

3　寄付や補助金等による資金調達以外にも、企業・大学・金融機関等と連携し、展示・販売機会の創出・場の提供、共同研究など、外部リソースの活用を積極的に進める。

京都伝統産業ミュージアムの機能強化

京都伝統産業ミュージアム
Kyoto Museum of Crafts and Design

- 「伝統産業ファンの裾野を広げる」「伝統産業の売上増につなげる」を基本方針として、令和２年３月にリニューアルオープン。現在、無料施設。

【常設展示】
京都の伝統産業74品目がすべて並ぶ国内最大規模の壁面展示。タッチパネルで詳細な解説のほか、製造工程の動画も観ることができる。

【自由展示】
製造工程の展示、素材・道具等を紹介。真田紐の結び体験やおりん鳴らし体験等、五感を使って伝統産業をより深く学ぶことができる。

【職人実演】
週末には職人による実演を実施。職人とふれ合い、匠の技を間近で見ることができる。

【特別企画展】
アートやデザイン、アニメ等とコラボした企画展を実施。

【マテリアルライブラリー】
様々な素材、材料、技術をアーカイブ。異なる分野と掛け合わせることや、建築やデザインなどのクリエイティブな領域と積極的な交流が生まれる場。

【ミュージアムショップ】
伝統工芸品～現代の暮らしに寄り添う道具、雑貨やアクセサリーに至るまで、国内外に誇れる京都の技術を活かした品々が並ぶ。

京都伝統産業ミュージアムの機能強化

- 伝統産業を取り巻く環境が厳しい状況にある中、、文化庁の京都移転など、国内外から京都への注目が集まるこの機会に、伝統産業振興の拠点である**ミュージアムの機能充実**を図り、**誘客の強化や伝統産業ファンの獲得**に取り組むとともに、**伝統産業界を中長期的に支援**するため、新たに**ミュージアムの入館料を設定**し、以下のとおり取り組んでいく。

1　機能の充実

⑴　団体客、インバウンド向け取組

- 修学旅行生、団体ツアー客、企業研修向けにミュージアム案内・解説プランを構築。旅行会社、宿泊施設、観光ガイド向け体験会や研修会の実施により、積極的にプランを採用いただき、団体客の誘客を図る。
- 多言語対応のタブレット貸出、館内案内の多言語化、旅行見本市への出展により国内外からの観光客の誘客を図る。

⑵　一般来館者の確保及び増加に向けた取組例

- 食のイベントや岡崎地域でのイベントとの連携、常設展示・企画展・職人実演の充実、案内解説員の育成、サポーター制度の構築（年間パスポート等）、シンポジウムや講演会の開催、ユニークベニュー活用、岡崎地域の他施設との相互割引、文化庁との連携など。

2　伝統産業振興（業界支援）

- 常設展示場の展示品を組合等に有償で発注し、定期的に魅力的な展示品の入替え又は収蔵品の修繕を実施。リピーター等にとって飽きの来ない展示を展開しながら事業者の収入増加、技術の継承を図る。
- 土日祝日に行っている職人実演を、集客イベントの実施日や団体客の予約日等の平日にも拡大し、職人と来館者との接点を増やすことで顧客ニーズの把握や新たな商品開発に寄与するとともに、職人の仕事・収入の確保につなげる。

3　入館料の設定について

- 一般５００円（団体客４００円、市外の小中高生４００円、市外の小中高生の団体３００円）

※　市内の小中高生、７０歳以上等は無料

来館者への還元策　⇒　ミュージアムショップでの割引販売（1,000円以上購入200円割引など）等を実施

6　本日、御議論いただきたいこと

依然として伝統産業が厳しい一方で、文化庁の移転、大阪・関西万博をはじめ、国内外から京都に注目が集まる中で・・・

- 広く伝統産業振興施策に対するご意見、アイディア
- 特に「今後の取組」に対し、各委員の皆様の分野、知見から、施策の形になるようなアイディア

（キーワード）

- **外部リソースの活用**
- **「京都伝統産業ミュージアム」の機能強化（来館者の増加、業界支援）**